

第3回 横浜市山内図書館指定管理者選定評価委員会 会議録	
日 時	令和元年8月28日（水）午後2時～午後4時40分
開 催 場 所	中央図書館5階第1会議室
出 席 者	藤崎委員長、小澤委員、金沢委員、姜委員、渡辺委員
欠 席 者	なし
開 催 形 態	非公開
議 題	1 面接審査（プレゼンテーション及びヒアリング） 2 選定に係る事項の確認について 3 その他
決 定 事 項	面接審査及び選定に係る事項の確認を行い、応募団体の得点を確定した。
議 事	<p><b>議題1 面接審査（プレゼンテーション及びヒアリング）</b></p> <p>（委員長）本日は応募団体の面接審査および採点をいたします。審査・採点の流れについて事務局から説明してください。</p> <p>（事務局）応募団体からのプレゼンテーション、ヒアリングを持って面接審査とする。時間配分は、機器の設定5分、プレゼンテーション20分、ヒアリング30分の合計55分。</p> <p>企業イメージにとらわれずに純粋に提案内容から判断していただく趣旨で、応募団体名・企業名を伏せて審査を行うことが「横浜市指定管理者制度運用ガイドライン」で求められている。ヒアリングの際の質問も、応募団体名を伏せた形で行っていただく。共同事業の構成事業者を区別して名指しする場合には、例えば「図書館運営側」「施設管理側」などと分けていただきたい。</p> <p>面接審査終了後、選定に関わる事項の確認をいただく。</p> <p>まず応募団体の財務状況および市内中小企業等に該当するかについて、公認会計士の委員から報告いただく。</p> <p>その後、事務局から応募団体の資格制限について、市税の納付状況調査の結果など、欠格事項に触れることがないかを報告し、委員の皆様にご確認いただく。</p> <p>その後、採点作業に移る。採点にあたり、意見交換及び採点作業を行う時間を30分ほど予定している。それぞれ採点表に仮採点を記入いただき、結果についてその場で集計する。その後各委員から採点結果と採点の考え方について表明いただき、相互確認、協議をいただいた上で本採点を行い、点数の確定となる。</p> <p>採点が終わりましたら、応募団体の提案について委員の皆様より講評をいただく。講評及び採点結果を踏まえ、審査報告書の案を作成する。</p> <p>《応募団体による機器設営・プレゼンテーション》  《ヒアリング》  《応募団体退出》</p>

## 議題2 選定に係る事項の確認について

### 応募団体の財政状況について

(委員長) 応募団体の財政状況について、またあわせて、市内中小企業等に関する確認について、公認会計士の委員からご報告をお願いします。

(委員) まず財務状況について。図書館運営側、施設管理側とも、収益性、安定性の面で特に問題はない。応募団体を構成する両者の財務状況は、指定管理者として安定的・継続的な運営の確保の面で、問題はないと考える。

続いて、市内中小企業に該当するかという点について。代表企業は本店が横浜市内にある。小売業で、資本金が5,000万円以下という要件にも該当する。したがって市内中小企業の要件を満たす。

(委員長) 評価基準項目の「財政状況」については、要求水準を上回っていることが確認できた。このため、この項目の得点は「5」で評価をお願いします。

### 応募団体の資格制限について

(事務局) 欠格事項の照会結果について報告します。

資料2の1～3ページ目が市税の納付状況について照会した結果となる。応募団体を構成する2事業者について、市税の滞納はなかった。

次に、資料の4～5ページは、応募団体を構成する2事業者の団体役員について、横浜市暴力団排除条例に基づいて神奈川県警に照会したもの。排除措置対象には該当しないとの回答があった。

(委員長) この資格制限については評価基準項目における評価項目ではないが、各応募団体は欠格事項に該当せず、資格を満たしていることを確認した。

では、これより採点作業の時間をとる。集計が済んだら、採点について協議いただく時間を設ける。

《各委員による採点作業》

《事務局による集計》

《採点についての意見表明、協議》

(委員長) 採点についての御意見をいただき、協議を行った。この結果をもって本採点確定とさせていただく。

各大項目の得点ならびに合計点数が最低基準を上回っているため、応募団体が指定候補者と確定したことになる。

### 講評

(委員長) では、これから応募団体に対する講評をいただく。審査結果を踏まえて、優れていた点や課題など、指定管理者に対する委員会の意見・要望などを審査報告書に載せることになる。そのことを前提に、改めて各委員からご意見をいただきたい。

《各委員からの講評》

(委員) 本来、複数の提案を比較検討して選ぶべきもの。競争があった方がよいが、1件だけだったのは残念だった。ただ、図書館運営企業は横浜市内の中小企業であり、なおかつ地元書店が母体。地域資料なども発行しているので、市の地域資料収集が得意分野であることは評価に値する。

提案された新規事業にはこどもから大人を対象に広く読書推進の視点があった。また、ボランティア養成の色々な取組があり、ボランティア活動が業務請負型から生涯学習型の推進を目指していることは評価できる。

これまでも意見してきた利用者参加型防災訓練について、高齢者などが非常時に不安なく行動できるように、ぜひ実施してもらいたい。

(委員) 大人の倶楽部活動、ICT活用、電子図書館の利用体験など、新しい事業提案の取組がたくさんあった。今後の展開や効果が期待される。

子ども向けの事業の他、ティーンズ世代向けの取組もあり、こちらも期待している。

(委員) 青葉区の特性を理解して、心のこもった業務をされていると感じる。この姿勢を続けてほしい。イベントなどで利用者を増やそうという姿勢は評価できる。

図書館に限らず、どこかに行こうとするときにまずウェブサイトを見る人が多い。山内図書館の現サイトは、古いお知らせが残っていたり、奥の階層に入っていないと必要な情報にたどりつけなかったりする。ティーンズ世代を取り込みたいなら、改善が必要。プレゼンでその点の具体的な提案はなかったので、今後取り組んでいってもらいたい。

(委員) 提案が効果的かどうか、疑問を感じる部分があった。山内図書館は青葉区の北東部にあり、利用するのはどうしても近隣の人に限られるのではないかと。区内の他の地域で開催されるイベントにリンクしたような提案が、あまりなかった。いままで図書館にアクセスできなかった遠方の人、障害者など来館が難しい人、非利用者を取り込むような取組に期待する。

また、防災訓練は、ぜひ早期に実施してほしい。

(委員長) 全体的に、さらなる地域連携の取組への意欲が目立った。図書館の地域情報拠点としての役割を強化するものとして評価できる。AIロボット、デジタルサイネージなどの新しい取組も評価できる。

市立図書館のネットワーク体制維持と山内図書館のサービスのさらなる向上をどう行うのか、指定管理者が他の市立図書館に対しどうインパクトを発揮するのか。すでに2期目が終わりに近づいているので、もっと気概を見せてもらってもよかった。

今回の提案のなかで、司書の力の発揮が前面に出されていた。従前の司書のキャリアプランに比べて、能力向上のために取り組むことを具体的に見せてほしい。司書の、単に相談に乗るということを超えたコーディネーター、ファシリテーター的役割など、どう能力開発していくのか。次の5年間で明確に示してほしい。

	<p>(委員長) いただいた講評をまとめ、私が審査報告書(案)を作成します。次回の選 定評価委員会でご検討をお願いいたします。</p> <p>(議事終了)</p>
資 料 ・ 特 記 事 項	<p>1 資料</p> <p>(1) 採点表</p> <p>(2) 欠格事項に関する照会結果について</p> <p>2 特記事項</p> <p>令和元年度の委員会は次の日程で開催予定。</p> <p>第4回 9月10日(火) 午前10時～</p>